

# 町家型

## 低町家型

江戸期からあった型で、昭和初期まで建てられていました。

ていまちやがた  
低町家型は、2階の背が低い町家です。2階の表は頭が悶えるくらいの高さで、物置や奉公人の部屋になっていることが多かったといえます。

例 たかおけ 旧高尾家（本町二丁目）大正九年築  
ちゃどけ 茶戸家（本町二丁目）昭和五年築

## 高町家型

昭和初期に現れた型で、現在も引き継がれています。

たかまちやがた  
高町家型は、2階の背が十分に高く、2階表の部屋が完全に明るい居室となり、若夫婦や子供部屋として使われていました。

例 ひょうちけ 兵地家（本町二丁目）昭和五年築  
むらたけ 村田家（本町三丁目）昭和七年築

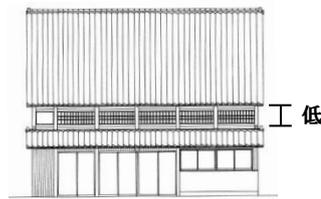
## 転正家 低町家型

【所在】本町二丁目

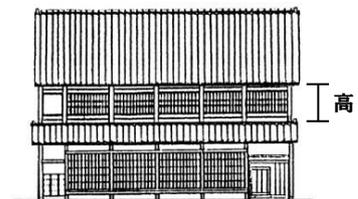
【建築年】明治二十五年頃



昭和元年ごろ、本町三丁目にあった醤油屋を移築したものです。大工は本町一丁目のいせき井関という人です。



低町家型



高町家型

## 妻入り型町家

妻入り型町家は、見た目は農家ですが、中の間取りは町家である家です。

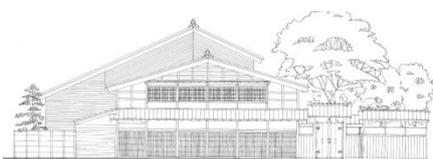
例 みもうけ 水毛生家（本町三丁目）1850年頃築  
(のちのパネルで紹介)

## 前平奥妻型町家

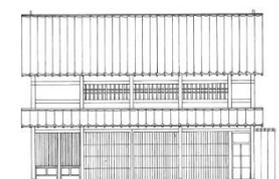
外見は町家風農家と同じですが、奥の部分の間取りが町家の家です。

妻入り型町家の前面に平入りの町家の表構えを加えた可能性があり、妻入り型町家の発達形でしょうか。

例 かしだけ 櫻田家（本町三丁目）昭和十二年築



妻入り型町家



平入り型町家

# 野々市型町家



## 山口家 平入り型町家

【所在】本町三丁目

【建築年】江戸末期

前が平入り、奥が妻入りです。とお通り土間はありませんが、仏壇の向きが、奥行きに対して直角で、町家型の間取りをもつ家です。